

## 着任挨拶

**田中利治** 名古屋大学名誉教授 客員教授 (2015年4月1日～2016年3月31日)

今まで害虫制御学に所属し、寄生バチの研究をやってきました。特にホスト昆虫の体内に寄生する内部寄生バチは、ホスト昆虫を自分の発育に都合のいいように制御する機構をもち、非常に巧妙にできていて驚くばかりです。自分の卵巣で作った共生ウイルスを産卵時に注入し、ホスト昆虫の免疫システムをうまく回避できます。すべての免疫システムをダウンするのではなく、特異的にハチの卵や幼虫のみが異物として認識されないように制御しています。この研究で、人の自然免疫や細胞性免疫機構の解明に貢献したり、ホスト昆虫の免疫システムを制御できる農薬の開発や、それぞれのハチの特性を生かした植物保護法の開発を目的としてきました。今度は、実際の圃場で起こっている生物対生物の関係を考慮に入れながら、上手な農薬の使用を行うことで安全で安心な作物生産を目指す研究に力を入れていくつもりです。舞台はカンボジアが中心となることから、農国のお世話になりました。



**略歴** 昭和24年東京生まれ。昭和48年東京学芸大学卒業。昭和50年東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了。昭和50年から54年まで私立高等学校教員。昭和56年京都大学大学院理学研究科修士課程修了。昭和61年京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了。昭和61年から平成2年まで北興化学工業(株)開発研究所研究員。平成2年に名古屋大学農学部助手に採用され、平成5年助教を経て平成17年4月から平成27年3月まで教授。平成27年3月から農国センターの客員教授。

**鮫島啓彰** 研究機関研究員 (2015年4月1日～2016年3月31日)

2015年4月からJST・JICA地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)「テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」に参加し、ケニアに滞在しながら研究および国際協力活動を行っています。これまでに日本、フィリピン、ナイジェリア、スーダンでイネの栽培試験を行った経験がありますが、ケニアという私にとっては新しい環境で育つイネを見ていると数々の新しい発見があります。ケニアの圃場で実際に育つイネを観察しながら、自分たちで採取したデータとこれまでに報告されているデータを比較し、ケニア人関係者と有意義な討議を行えるようになりたいものです。本センターやケニア側の皆様から経験や知識を分けていただきながら、私自身もプロジェクトに貢献していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。



**略歴** 1973年生まれ。2004年に北海道大学大学院農学研究科を単位取得退学(同年博士号取得)。国際農林水産業研究センター、茨城県農業総合センター農業研究所、神戸大学を経て、2015年4月より現職に就任。

**クララットナ ジャガット シリ** 研究機関研究員 (2015年4月1日～2016年3月31日)

ICCAEの研究機関研究員として、カンボジアの酒造産業におけるエネルギー利用や廃棄物処理などの環境的側面に関する研究を担当しています。これまで従事してきた、地球温暖化対策に向けた排出権取引の可能性に関する研究や、スリランカの大規模プランテーションにおける環境的側面に関する研究の経験を生かし、カンボジアという新たな地での研究に力を注ぎたいと考えています。ICCAEが科研費やJICA草の根技術協力事業にて研究開発・普及を進めている米蒸留酒の製造方法について、新たに環境的な側面からの評価を取り入れることで、より持続的な酒造産業のあり方を見いだしたいと考えています。



**略歴** 1961年生まれ。1985年にスリ・ジャヤワルダナプラ大学(スリランカ)応用科学学科卒業。1997年名古屋大学大学院国際開発研究科博士課程前期課程修了、2005年同大学生命農学研究科博士(農学)取得後、2005年日本学術振興会 外国人特別研究員、2008年Nシステム株式会社 研究技師兼特別研究員、2009年名古屋大学プラズマナノ工学研究センター研究員を経て2015年4月より現職。